

令和6年度 陽北中学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す生徒像含む）

- (1) 基本目標
- ・ 自ら考え、主体的に学ぶ生徒
 - ・ 活気に満ちた、たくましい生徒
 - ・ 心豊かで、思いやりのある生徒
- (2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）
校訓「聡く 強く 美しく そして、陽北中生としての誇りをもつ」を体現できる生徒

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

社会に貢献できる人間を育成するため、生徒一人一人の自らの良さや身に付けた力に気付かせ、自己有用感を高め学校を楽しく居がいのある場としたい。そして、それらを伸ばしていく指導のもとに、確かな学び、豊かな心、健やかな体を育む教育活動の充実を図る。さらに、人とのつながりの中で互いに支え合い、人に役立つことの意義が理解できる生徒を育成する。

本校の古きよき伝統と校風を守り発展させ、保護者や地域の信頼と期待に応えることにより、生徒が陽北中学校に学ぶことを誇りに感じる学校づくりを目指す。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) 学習指導において、教師間で授業を見せ合う機会を増やし、授業実践を通じた指導力の向上に努める。また、教材やICTを効果的に活用しながら、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業の工夫・改善を図る。
- (2) 生徒の自主的・自治的に活動できる場面を積極的に取り入れ、安心して考えを伝え合い、互いに高め合える学級集団の育成に努め、一人一人の個性の伸長を図るとともに、協働して課題に取り組む態度を養う。
- (3) ○道徳教育において、自己を見つめ、物事を広い視野から多面的、多角的に考え、自己の生き方や人間としての生き方について考えを深めることができるよう道徳の時間の充実を図り、すべての教育活動をとらして道徳的実践力の育成に努める。
- (4) 生徒指導において、生徒一人一人の人格を尊重し、生徒の自信や自己有用感を高め望ましい行動への意欲付けを図るとともに、生徒のResilience《苦境にもめげずに立ち直る復元力》の向上を図り、豊かな心を育む教育を推進する。
- (5) すべての教育活動に、特別支援教育や教育相談の考え方を生かし、一人一人の生徒の内面や能力・環境等の的確な理解の上に、その教育的ニーズに応える教育の実践に努める。
- (6) ○小中一貫教育と地域学校園の推進に努め、重点化・焦点化した活動を展開する。
- (7) 豊かな心と主体性を育む施設設備等のハード面や、言語環境・掲示環境等のソフト面の整備・充実に努める。
- (8) ○生徒・保護者・地域住民等とのより良い人間関係を構築し、地域の小学校との連携はもとより体験的な活動の充実を図り、地域とともにある学校づくりを推進して人間性や社会性豊かで広い視野に立つ生徒を育成する。
- (9) 学校運営では、「教職員の働き方改革」の視点から、ミドルリーダーを核とした校内組織の活性化を図り、校内業務の精選化・効率化を推進していくとともに、勤務時間を意識した働き方を推進していく。
- (10) 「教職員評価制度」や「学校マネジメントシステム」、「魅力ある学校づくり地域協議会」等を有効に活用しながら、学校と家庭・地域との連携・協力を深め、教職員一人一人が情熱をもち協働して指導する。

【陽北地域学校園教育ビジョン】

「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」 ～人と人の豊かなかかわりを通して～

4 教育課程編成の方針

- (1) 教育関係諸法規・法令や学習指導要領及び県、市の教育行政の方針等を踏まえる。
- (2) どのように学び、どのような力を身に付けるのか等「社会に開かれた教育課程」を踏まえる。
- (3) 小中一貫教育を推進し、地域学校園で連携した取組を家庭や地域に積極的に発信するなど教育地域とともにある学校づくりの一層の充実を目指す。
- (4) 持続可能な社会の創り手となるよう、生徒が自分のよさや可能性に気づき自己肯定感を高めることができるよう工夫する。
- (5) 生徒の発達段階を考慮し、学習の基盤となる資質・能力や、SDGs等に係る現代的な諸課題に対応していくための資質・能力を育成することができるよう、教科等横断的な視点で、各教科等の関連付けを図りながら教育課程を編成する。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営	・ミドルリーダーを核とした組織の活性化とともに、校内業務の精選化・効率化を図る。 ○地域と連携した諸活動の推進
(2) 学習指導	○「学びあい 認めあい 高めあう 陽北地域学校園」に基づいた教員の授業力向上、並びに家庭・地域と連携した学力向上
(3) 児童生徒指導	・自己有用感を育てる生徒指導と個別支援の充実
(4) 健康（体力・保健・食・安全）（元気アップ教育に係る取組を含む）	○生涯にわたって心身ともに健康で安全な生活を送るための資質や能力の育成

6 自己評価 A1～A20は市共通評価指標 B1～は学校評価指標（小・中学校共通，地域学校園共通を含む）

※「主な具体的な取組の方向性」には、A拡充 B継続 C縮小・廃止，を自己評価時に記入

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

第2次宇都宮市学校教育推進計画後期計画基本施策	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
1- (1) 確かな学力を育む教育の推進	A 1 生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・各学級の学芸委員会が中心となり、家庭学習の内容を掲示したり、実施の呼びかけをしたり、自主的な学習に取り組ませていく。 ・家庭学習の習慣化と内容の充実を図る指導と啓発を行う。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、90.2%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・学習内容に対する興味や関心を持たせる工夫をするとともに、生徒自身が達成したい目標を設定し、その目標に向かって進む過程をサポートする。 ・適切なタイミングでのフィードバックを行い、モチベーションを高める。 ・グループ学習やペアワークを取り入れ、他生徒と協力する機会を設定する。 ・主体性を育むため、自分で学習計画を立てたり、学習方法を選んだりできるようにしていく。
1- (2) 豊かな心を育む教育の推進	A 2 生徒は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上 生徒の肯定的回答 85%以上	・より積極的に生徒の良さを発見し、認め、賞賛し、自己有用感を育成することに加え、他者への思いやりの心を育成するような指導を行う。 ・道徳での振り返りや日頃の思いやりのある言動の実態などを学級だよりや学年だよりなどを通して保護者や地域に発信していく。	B	【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、教職員が100%、生徒が93.2%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・生徒の良さを学校全体で共有できるような取り組みを検討する。
	A 3 生徒は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上	・全教職員で、学校行事や部活動など、集団や個人の達成目標について、明確な達成目標を立てられるような助言・活動を工夫していく。 ・目標に向けて努力することのすばらしさを全教育活動の中で伝え、目標達成に向けて努力する生徒を認める。	B	【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、82.9%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・数値目標をやや下回っているが、主体的に目標に向かって取り組む姿は多く見られる。目標の達成を実感できるように励まし、認める機会を増やしていく。

<p>1- (3) 健康で安全な生活を実現する力を育む教育の推進</p>	<p>A 4 生徒は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健主事を中心に保健だよりや委員会活動をとおして健康についての啓発を行い、健康に関する自己管理能力を高める。 ・保健安全部主導で、安全教育全般を通して、思考力・判断力・表現力を育成していく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が90.0%、教職員が97.0%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・保健主事を中心に健康についての啓発を日常的に行い、健康に関する自己管理能力を高める。 ・特に歯みがきについて、全学年統一で行っていきけるように委員会活動などを通して呼びかけを行う。</p>
<p>1- (4) 将来への希望と協働する力を育む教育の推進</p>	<p>A 5 生徒は、自分のよさや成長を実感し、協力して生活をよりよくしようとしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校行事や生徒会活動、学級での係活動等において、生徒が主体となって活躍できる場を積極的に設定する。 ・生徒が自己肯定感をもちながら、互いに認め合える受容的な雰囲気づくりを行う。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、86.3%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・学校行事や生徒会活動等において、生徒が主体となって活躍できる場を積極的に設け、生徒にその成果を伝えるとともに、生徒が互いに認め合える場面を増やしていく。</p>
<p>2- (1) グローバル社会に主体的に向き合い、郷土愛を醸成する教育の推進</p>	<p>A 6 生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・オールイングリッシュの授業実践を展開し、コミュニケーション場面を意図的に設定していくなど、英語科での言語活動を工夫し、お互いに伝えあう活動の機会を増やしていく。 	<p>A</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、77.6%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・オールイングリッシュで授業を展開し、会話活動やICTを活用した発表を行う活動を積極的に取り入れる。 ・給食の時間を利用し、ALTによる放送や給食への参加を引き続き行い、生徒が英語に触れ、コミュニケーションをとる機会を増やしていく。</p>
	<p>A 7 児童生徒は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携教員を中心に地域人材の活用や地域の教育資源を活用するなど、取組を工夫する。 ・総合的な学習の時間での宇都宮学を活用して、地元への関心を高め、教育活動において地域人材の教育資源の活用を推進していく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、84.1%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間の「宇都宮学」を活用していく。その際に、生徒が興味を持てるようにワークシートの工夫を行う。 ・百人一首大会を開くなど、宇都宮の文化や歴史に直接触れられるような体験活動を行う。</p>
<p>2- (2) 情報社会と科学技術の進展に対応した教育の推進</p>	<p>A 8 生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の年間計画を見直し、授業展開のなかに、端末を活用する場面を意図的に設定していく。 	<p>B</p> <p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、97.0%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・探究学習ではデジタル機器を活用する場面を取り入れ、生徒の主体的な学びを促進する。 ・図書等を活用した調べ学習を充実させ、情報リテラシーや批判的思考能力を育成する。</p>

<p>2- (3) 持続可能な社会の実現に向けた担い手を育む教育の推進</p>	<p>A9 生徒は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・総合的な学習の時間を軸とした教科横断的な計画を立て、3年間を通した活動をしていく。 ・全教職員が学校行事やボランティア活動をはじめ、生徒の自己有用感が高められる場面を多く設定していく。 ・現代社会の課題として「持続可能な社会」について、生徒への投げ掛けを意図的に行い、主体的に学びに向かえる学習方法を工夫していく。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、79.0%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・生徒会からボランティア活動の呼びかけを積極的に行う。 ・社会の授業や総合的な学習の時間を活用していく。</p>
<p>3- (1) インクルーシブ教育システムの充実に向けた特別支援教育の推進</p>	<p>A10 教職員は、特別な支援を必要とする生徒の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・インクルーシブ教育の視点を意識し、SC、SCM、MS、養護教諭との連携を図り、情報共有や互いの報告、連絡、相談を徹底する。合わせて合理的配慮についての共通理解や、意見の交換の場を設ける。 ・かがやきルームについて、効果的な支援を踏襲・継続し、さらに適切な支援の充実を図る。 ・教育課程に特別支援教育推進委員会を位置づけ、年2回の実施をしていくほか、必要に応じ臨時委員会を開いていく。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、97.0%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・特別支援教育推進委員会及び教育相談部会を通し、継続的支援の充実を目指し、生徒理解と教職員間の情報共有に努める。 ・合理的配慮の提供により、特別な支援を必要とする生徒の学習及び生活支援の充実を図る。 ・年に1回以上の特別支援教育に関する研修を行い、インクルーシブ教育の推進に努める。</p>
<p>3- (2) いじめ・不登校対策の充実</p>	<p>A11 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・いじめゼロ強調月間に合わせて、「学校生活のアンケート」を実施し、現状を把握するとともに、いじめの早期発見に努める。 ・生徒会主体のいじめゼロ集会を行い、いじめゼロ宣言やいじめゼロ標語募集など、いじめゼロに向けての活動を行い、生徒の意識向上を図る。 ・取組を学校HPや生徒指導日よりなどで校外に向けて発信をする機会を増やし、一層充実していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が96.6%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・今年度、校内で行った活動を校外に向けて発信する取り組みを積極的に行ったので、継続したい。次年度も教職員へのいじめ等対策についての研修などを行い、未然防止・早期発見に努める。</p>
	<p>A12 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・学年部会、不登校対策委員会を中心に組織的に取り組む。 ・スタンダードダイアリーの活用を図り、生徒の良い点や善い行いを賞賛することで、自己有用感をさらに高めていく。また生徒の不安なども早期に発見し、対応することを継続していく。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が94.9%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・不登校の背景を的確に捉え、今後も組織的な対策を行い、学校全体の課題として取り組みたい。また、日々の生活の中、不登校を生まないために、自己有用感を高めるような声掛けや取り組みを継続していきたい。</p>
<p>3- (3) 外国人児童生徒等への適応支援の充実</p> <p>3- (4) 多様な教育的ニーズへの対応の強化</p>	<p>A13 学校は、一人一人が大切にされ、活気があり、明るくいきいきとした雰囲気である。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・学校行事や生徒会活動など、生徒の自発的な活動を教職員が要所で支援し、達成感や充実感を味わわせ、自己有用感を高めていく。 ・生徒を主体とした活動を大切に、生徒の学びの機会を提供していく。 ・生徒の良さへの称賛を陽北Good job賞などで行うことで、教職員は常に生徒のよさを見つけ認めて伸ばし、生徒の居がいのある学校づくりを目指す。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が96.1%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・生徒一人一人が輝ける場所作りを念頭に置き、生徒主体で学校行事を計画・運営できるように教職員は支援していく。また、それらに対するの賞賛をしっかりと行い、自己肯定感の向上に繋げるよう努める。</p>

<p>4- (1) 教職員の資 質・能力の 向上</p>	<p>A14 教職員は、分かる授業や生徒にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教科部会を充実し、授業展開の工夫や端末活用を検討し、授業力向上に努めていく。 ・学校HPや各種たよりを通して、授業の様子や生徒の実態を発信していく。 ・校内授業研究会を充実させることで、教師の授業力を向上させ、生徒の学力向上を図っていく。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が94.6%、教職員が100%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・基礎学力の定着を図り、個別指導とサポートを充実させるとともに、生徒が主体的に学習に取り組むためのアクティブラーニングを推進する。 ・ICTを効果的に活用し学習の幅を広げる。 ・保護者とのコミュニケーションを強化し、家庭と学校が連携することで学力向上を図る。</p>
<p>4- (2) チーム力の 向上</p>	<p>A15 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校経営方針具現化のために、チームとしての具体的な到達目標をいくつか設定する。その実現のために自分は何をすべきかを個々の教職員評価の具体的な目標設定に策定できるようにする。 ・GIGAスクール構想に基づく端末活用を通して、教科や学年、若手ベテランのOJTを一層推進し、相互研鑽の雰囲気高められるようにする。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、90.9%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・学校経営方針の重点目標達成に向け、各部の具体策を検討し、個々の教職員評価の具体的な目標成果として設定することを継続する。 ・全教職員の専門性を生かして、業務に取り組む体制をつくる。</p>
<p>4- (3) 学校における 働き方改革の 推進</p>	<p>A16 勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・退勤時刻宣言や「私の仕事効率化のための工夫」紹介など、個々の勤務時間と仕事効率の意識化を高める工夫をする。 ・ミライムやGIGAスクール構想に基づくICTの活用による業務の効率化や改善を推進するチームを編成し、校内研修など実践する。 	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定回答の割合は、69.7%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・日常業務の見直しや内容の改善、ICT活用による効率化などを検討する。 ・教職員が主体的に働き方改革を意識する場と雰囲気を醸成する。 ・文書やデータ、物品などの整理をし、機能的な環境をつくり、業務の効率化を図る。</p>
<p>5- (1) 全市的な学 校運営・教 育活動の充 実</p>	<p>A17 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中交流授業を各小学校で実施する。 ・年2回のあいさつ運動など、生徒の自主的な参加を促していく。 ・年2回の小中合同家庭学習強化週間を設ける。 ・小学校6年生の中学校訪問を実施する。 	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が86.6%、教職員が90.9%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・小・中が連携して学力向上を目指す取り組みを定着させる。 ・小6生の中学校訪問を通して、中学校進学への期待を高め、不安解消を図る。 ・小中合同のあいさつ運動を通して、小学生の中学校進学に向けた不安軽減を図るとともに、他者を思いやる心やコミュニケーションの育成を図る。</p>
<p>5- (2) 主体性と独 自性を生か した学校経 営の推進 5- (3) 地域と連 携・協働し た学校づく りの推進</p>	<p>A18 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、教育活動や学校運営の充実を図っている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・1年「働く人に学ぶ」や2年「社会体験学習」など、地域の職業人や事業所への理解を一層深められるようにする。 ・望ましい職業感の形成や主体的に学ぶ進路学習の実践など、キャリア教育の充実を図る。 	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、79.5%で数値目標を下回った。 【次年度の方針】 ・各学年において地域の人材や事業所とのつながりを大切にし、さらに理解を深めるとともに、取り組みやその成果を生徒が実感できるように、取り組みの過程を工夫していく。</p>

<p>6-(1) 安全で快適な学校施設整備の推進</p>	<p>A19 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・安全教育係を中心に、毎月1回の安全点検を組織的に実施する。 ・市会計年度任用職員（学校業務）や機動班と連携を図り、修繕箇所の早期改善に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・保護者の肯定的回答の割合は、88.3%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・月に1回の安全点検で確認するだけでなく、日ごろから担当場所の見回り点検を行い、日常的に実施をする。なお、修繕が必要な場合には速やかに副校長、学校業務に報告をして早期に修繕改善に努める。</p>
<p>6-(2) 学校のデジタル化推進</p>	<p>A20 コンピュータなどのデジタル機器やネットワークの点から、授業（授業準備も含む）を行うための準備ができている。 【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・ICTを効果的に活用した授業づくりを推進する。 ・ICT支援員と連携しながら、校内におけるICT環境の整備に努める。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、97.0%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・ICT支援員と連携しながら、校内のICT環境の維持・充実に努めていく。 ・授業でのICTの積極的な活用を図るなど、教職員のICT技能の向上に努める。</p>
<p>小・中学校、地域学校共通、本校の特色・課題等</p>	<p>B1 生徒は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 保護者の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・生徒会執行部、生活委員会による「あいさつ運動」に参加した生徒に対して「陽北Good job賞」等を用いて、称賛するような働きかけをし、生徒自身が自主的に活発なあいさつができるように育成する。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が98.0%、保護者が88.6%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・校内での教職員へのあいさつやあいさつ運動等の活動ではよくあいさつができているが、来客や保護者に対して今後より一層自主的にあいさつできるよう支援をしていく。</p>
	<p>B2 生徒は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・全教職員できている行動・良い行動を認めるなど生徒の行動を積極的に評価する。 ・場面にあった判断を自分で行っていけるような「自己指導能力」の向上を図り、より一層、きまりやマナーを順守するような態度や思いを醸成する。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が95.9%、教職員が97.0%で共に数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・きまりの検討だけではなく、きまりやマナーを守ることを学校全体で考えていくような取り組みを検討したい。</p>
	<p>B3 生徒は、進んで運動をしている。 【数値指標】 生徒の肯定的回答 80%以上 教職員の肯定的回答 80%以上</p>	<p>・年間を通して、単元に合わせた補強運動を実施しながら、体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度を養う。</p>	<p>【達成状況】 ・肯定的回答の割合は、生徒が70.2%で数値目標を下回ったが、教職員は90.9%で数値目標を上回った。 【次年度の方針】 ・年間を通して、単元に合わせた補強運動を実施しながら、体力の向上を図るとともに、運動に親しむ態度を養う。 ・各クラスにボールを配布しているので、ボールを活用して外に出る習慣をつけさせる。</p>

	<p>B4 学校全体で校訓「聴く強く美しく」を共有化し、生徒同士の連帯感を高めている。</p> <p>【数値指標】 教職員の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・本校の教育活動の指標、伝統を、学校が元気に力強く進んでいくためのスローガンとして、様々な活動や取組において啓発していく。</p> <p>・特に、「より主体的な生徒会活動」、「自己指導力育成を図る生徒指導」、「GIGAスクール構想に基づくICT活用能力向上」において、新たな目指す生徒像として校訓を強調し、その実現に向けて意識を高めていけるようにする。</p>	<p>【達成状況】 ・教職員の肯定的回答の割合は、93.9%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・様々な取り組みを通して、校訓と結びつけ、強調することで、その実現に向けて生徒および教職員の意識を高めていけるようにする。</p> <p>・コロナ禍以前に近い形で行事を行えるようになってきたことから、生徒が主体的に活動できる場を増やしていくようにする。</p>
	<p>B5 生徒は、校訓「聴く強く美しく」のもと、力を合わせて、学校行事をはじめ様々な活動に取り組んでいる。</p> <p>【数値指標】 生徒の肯定的回答 85%以上</p>	<p>・様々な活動や取組において、「校訓」を本校の伝統、目指す生徒像として実施することを啓発していく。生徒会活動や端末を活用した集会等を実施していく。</p> <p>・校内各所への掲示、各種通信など周知を図り、充実させていく。</p>	<p>【達成状況】 ・生徒の肯定的回答の割合は、88.8%で数値目標を上回った。</p> <p>【次年度の方針】 ・様々な活動や取り組みにおいて、「校訓」を意識できるよう、特に計画や振り返りにおいて啓発していくようにする。</p> <p>・生徒会活動や校内各所での掲示、各種通信などでこれまで以上に効果的な周知を工夫していくようにする。</p> <p>・一人一人の個性の伸長を図り、学校全体で取り組む活動を協力して行えるようにする。</p>

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

・生徒のアンケート結果では、市内中学校平均との大きな差はなかった。質問事項A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」では、市内中学校平均を5ポイント以上上回っている。授業や学校行事等でのICTの活用が定着してきていることがうかがえる。質問事項A6「児童生徒は、英語を使ってコミュニケーションしている。」では、昨年度より5ポイント以上上回っており、また、市内中学校平均も上回っている。

・保護者の肯定的割合においては、市内中学校平均をほぼ上回った。質問事項A8「児童生徒は、デジタル機器や図書等を学習に活用している。」とB2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」では、大きく上回った。

・教職員の肯定的割合においては、6項目（質問事項A1・A2・A3・A4・A5・B2）で市内中学校平均を5ポイント以上上回った。特に質問事項A1「児童生徒は、他者と協力したり、必要な情報を集めたりして考えるなど、主体的に学習に取り組んでいる。」やA2「児童生徒は、思いやりの心をもっている。」、B2「児童生徒は、きまりやマナーを守って、生活している。」では、大きく上回っている。学校全体で行う行事等も増え、お互いのことを考え、協力する機会が持てるようになったためと考えられる。また、アンケート結果から、生徒が落ち着いた学校生活を送っている様子を見ることが出来る。

○質問事項A17「学校は『小中一貫教育・地域学校園』の取組を行っている。」における肯定的回答においては、生徒・教職員ともに市中学校平均を上回っている。教職員については、昨年度より23.4ポイント上回っている。コロナ禍を経て児童生徒間の交流が増え、また教職員間の研修会も充実してきたからと考えられる。今後もより一層充実した取組となるよう地域学校園内で連携を図りながら実践していきたい。

7 学校関係者評価

・社会・地域との交わりが少ないので、持続可能な社会、地域学校園の取り組みの数値が低いように思います。小・中・社会の取り組み活動を増やせばよいと思います。

・数値目標を達成するのも、個々で性格や感覚の差があるため、なかなか難しいと思います。短期で結果につながらなくても、続けることで変わってくることも多いはずです。

・最近、元気にあいさつをする生徒が少なくなっているような気がします。

・先生方の事務負担が多い中でも、生徒への学習・生活指導を第一に考えている姿が、生徒への意欲へつながっていると思います。

- ・今年度の重点目標は、キーワードとして「教員の授業力向上」「家庭・地域との連携」「自己有用感」「健康で安全な生活」だったが、昨年度との比較と市全体との比較ともにおおむね良い状況である。比較的陽北中の取り組みはよくやっており、継続実施が望まれる。
- ・課題としては、「レジリエンス」の大切さは、中学生や保護者にもよくわかるが、その取り組み（行事）の具現化か、何か具体的取り組みがあるかといふ。
- ・「レジリエンス」は言葉としては浸透してきた。どう実行に移すかが課題。そもそも苦境にめげず立ち直るイメージ。「受け流す」力なのか「反発する」力なのかイメージで大きく違う。指導する側がどんなイメージを持って指導していくかが重要だと思う。
- ・小中一貫教育の取り組みに関して、あいさつ運動のなかに、もっと交流の場を増やしてもよいと感じた。
- ・小学校から中学校、高校と生活や活動範囲が広がっていく中で、今、できることは何か、何が求められているのかを知る体験ができるとよいと思います。
- ・「持続可能な社会」について、生徒、教職員、共に数値が低い。大切な事項であると思うので、より一層の取り組みを期待します。
- ・レジリエンスについては、更なる充実を期待します。変化の社会で生き抜く力になる。
- ・落ち着いた学校生活を送っている様子が見え、うれしく思いますが、地域社会等の交流、社会貢献に積極的に取り組んでほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・生徒の肯定的回答においては、昨年度とほぼ変わらないが、上昇している項目が多く見られた。「英語を使ってコミュニケーションしている。」については、会話活動やICTを活用した発表をするなど工夫した授業を展開することにより、5ポイント以上上回ることができた。今後も、ALTを積極的に活用するなどさらに英語のコミュニケーション能力が身につくよう指導をしていく。
 - ・教職員の肯定的回答については、6項目において10ポイント以上、8項目について5ポイント以上上回った。昨年度低下してしまった項目についてポイントアップすることができた。「教職員の協力」については、全学年で学校行事等を行うことが増え、組織で動くことの達成感を味わう機会が多くなったことで、ポイントがアップしたと考えられる。今後も、日常からチームで取り組めるような組織力を強化していく。
 - ・保護者の肯定的回答においては、昨年度とほぼ変わらないが、若干低下している項目のほうが多く見られた。保護者が参観可能な学校行事等が少しずつ増えてはきたが、まだ、学校の取り組みがうまく伝わらないことがあると考えられる。学校での生徒の様子をホームページやさくら連絡網等を通して、より効果的に発信していく。
 - ・市全体との比較で、どの項目においても、市平均とほぼ同等の結果でした。教職員については、生徒の学校生活に関する項目で市平均を上回った。生徒が落ち着いた学校生活を送っているためと考えられる。教職員の働き方について課題が見られた。日常業務の見直しや内容の改善、ICT活用による業務の効率化を図り、教職員が働き方改革を意識した職場の雰囲気づくりをしていく。
- 小中一貫教育・地域学校園の取り組みについては、コロナ禍を経て、児童生徒間の交流が増え、教職員間の研修会が充実したことにより大幅にポイントがアップすることができた。今後、より一層充実した取り組みとなるよう地域学校園内で連携を図りながら、組織の体制を見直したり、会議の形式を工夫したりしていく。
- ・今年度は上昇した項目が多く見られる。昨年度大きく低下した項目があったからと考えられ、年によって上下していることがわかる。変動なく定着させるためには、根気強く指導にあたる必要があると考える。